

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp

URL: <http://www.elv.or.jp/>

自動車リサイクル士制度 関係者報告会を開催

今回の自動車リサイクル士制度に対して、多くの関係者の皆様に多大なるご支援をいただきましたこと、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

このご支援を次の事業活動に反映できるように、平成26年2月4日(火) 13:00よりELV機構本部会議室において、自動車リサイクル士認定制度関係者報告会を開催いたしました。関係省庁、促進センター、自工会、自再協、自販連の担当者にご出席いただき、昨年実施した講習会の報告を行うとともに今後の自動車リサイクル士制度の方向性につき説明をし、多くの関係者に、更なる貴重なご意見ご鞭撻をいただきました。

このことによって、この制度の期待度の高さを身を持って感じました。我々の業界がこの制度によって、生まれ変わる第一歩になる予感を感じ入りました。

我々が初心に戻り、自動車リサイクル産業の牽引役として、がんばっていける確証を得る会議だったと思います。行政関係者様は、我々の活動を正しく評価しておられます。このご期待に背かないような組織作りを、我々がすべき時に来ています。

他社、他業界、関連法令を批判するのではなく自身の襟を正すことによって、我々業界の繁栄を再発見する場になることを信じて、我々の協力体制を確立いたしましょう。ありがとうございました。

(副代表理事 吉川 日男)

▼平成25年度自動車リサイクル士制度認定講習会開催実績

(自動車リサイクル管理士のみ)

	開催ブロック	受講者	行政	関係者	合格者	合格率
1	講師養成講習会	80 名	2 名	13 名	76 名	95.0%
2	関東ブロック	85 名	18 名	22 名	82 名	96.5%
3	東北ブロック	64 名	13 名	16 名	60 名	93.8%
4	北海道ブロック	103 名	16 名	14 名	90 名	87.4%
5	近畿ブロック	48 名	23 名	23 名	47 名	97.9%
6	沖縄ブロック	45 名	18 名	8 名	41 名	91.1%
7	中国・四国ブロック	52 名	13 名	12 名	50 名	96.2%
8	九州ブロック	68 名	18 名	21 名	66 名	97.1%
9	中部・北陸ブロック	69 名	13 名	14 名	64 名	92.8%
10	中国・四国ブロック	21 名	9 名	9 名	21 名	100.0%
合 計		635 名	143 名	152 名	597 名	94.0%
延べ参加者総数		930 名				

▼各ブロックの開催報告(ELV機構ホームページに掲載中)

<http://www.elv.or.jp/media/Rakude/20131218131858-jname.pdf>

目次

巻頭言	 1
トピックス1	
自動車リサイクル士制度関係者報告会	 1
トピックス2	
自動車リサイクル士制度認定講習会開催	 2
トピックス3	
未来政策部会	 2
会員活動報告	 3
特別寄稿コラム	 4
鉄スクラップ最新情報	 5
行事予定・お知らせ	 6
編集後記	 6

巻頭言

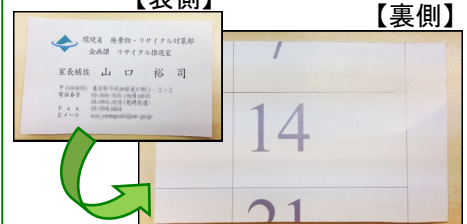
前回のニュースレターの記事を作成するため環境省へ出向いた時です。昼間の休憩時間終了間際に着いたのですが、節電を意識してか、室内の電灯の多くが消されていました。

山口室長補佐からいただいた名刺は普通の名刺よりも薄い感じがしました。そして裏側には「7?」「14」「21?」という数字が並んでいます。

良く見るとカレンダーの裏側を利用していました。「そんなことしなくても再生紙を使えばいいのでは?」等、賛否はあるかもしれませんが、ここまで徹底させることで見えてくるものもあるかもしれないと感じさせられました。

【表側】

【裏側】



(広報部会委員 小宮山 敬仁)

自動車リサイクル士制度認定講習会 3月14日、15日に開催

平成26年3月14日(木)、14日(金)に「自動車リサイクル士制度認定講習会」が開催されます。本講習会の概要は以下のとおりです。その他、お申し込み方法や当日のタイムスケジュールなどの詳細情報については、<http://www.elv.or.jp/0-0-601.html> をご参照ください。(お申し込み期限: **3月5日(水)まで**の消印有効)

■開催概要

資格の種類	開催日時		受講料	
	1日目	2日目	ELV機構会員	ELV機構非会員
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	3月13日(木) 10:00～17:05	なし	8,000円	10,000円
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破碎工程)	3月13日(木) 10:00～16:15	3月14日(金) 9:30～13:25	15,000円	25,000円
自動車リサイクル管理士	3月13日(木) 10:00～16:15	3月14日(金) 9:30～17:15	20,000円	35,000円

【場所(全資格共通)】

LMJ東京研修センター5階特大会議室 <http://www.lmj-japan.co.jp/kaigishitu/>

※住所／〒113-0033 東京都文京区本郷1-11-14小倉ビル ※電話／03-5842-6690

【資格有効期限(全資格共通)】

認定を受けた日から2年後の年度末まで(更新制)

※例／認定日:平成25年8月23日 → 有効期限:平成28年3月31日まで

未来政策部会 次年度の活動方針について

平成26年2月10日(月)に「平成26年2月度未来政策部会」が開催されました。本部会には、熊本大学法学部教授の外川健一様がオブザーバーとして参加され、未来政策部会の今後の活動方針について議論がなされました。

そもそも未来政策部会とは……？

平成24年度より発足した部会です。

業界における次世代リーダーを育成することを目的とし、若手経営者(未来委員)を中心に活動しています。

また、未来委員らをサポートする役割として、政策委員が設置されています。

部会で決定した活動方針とは……？

経済産業省や環境省、民間から講師を呼び、自動車リサイクル業界に有益な講習会を開催します。

その講習会等を通して、団体の枠を超えた若手経営者の交流を行います。

→ 将来的には講習会の参加者を増やしていきます。
参加者を多く募る場合は、ブロック長に協力をお願いする予定です。

■委員名簿

政策委員	
氏名	会社名
イシガミ ツヨシ 石上 剛	石上車輛(株)
クリハラ ヒロユキ 栗原 裕之	(有)昭和メタル
ミキ ヤスヒロ 三木 康弘	三木資源(株)
ミヤモト マキ 宮本 眞希	(株)ミヤモト
未来委員	
氏名	会社名
シミズ ミチヨシ 清水 道悦 (部会長)	(株)ユーパーツ
ササキ ケンジ 佐々木 健二 (副部会長)	(有)佐々木商店
キウチ マサユキ 木内 雅之	アール・ループ(株)
ヨシオカ アツシ 吉岡 篤史	(有)二協自動車商会
キタグチ マコト 北口 誠	(株)キタグチ
エノモト トモコ 榎本 朋子	浦和自動車解体(株)

宮城県にて解体業許可更新についての説明会開催

来年度は、多くの組合員が解体業の許可更新時期になることから、組合員のスムーズな許可更新を目的として、宮城県中小企業団体中央会様の主催で「解体業許可更新についての説明会」を開催いたしました。

2月5日には仙台市廃棄物指導課様から、また2月17日には宮城県循環型社会推進課様及び宮城県大崎保健所様から、講師としてご出席をいただき、許可更新の説明や最近の解体業についてまでお話しいただきました。

私たち組合員にとりましては、意見交換や質疑応答ができた有意義な場となり、行政の方々の私たちに対する熱い想いを感じとれる説明会となりました。

■質疑応答■

Q いつ頃から受付相談に伺ったら良いですか。

A 更新許可申請書收受から許可までの標準期間は60日です。6、7月頃に更新を迎える事業者様に関しては間もなく準備に掛かった方が良いでしょう。ただ、時間のかかる案件がある場合はすぐ取り掛かっていただけて結構です。ご注意いただきたい事は、今回の更新申請にあたり、前回の申請時に提出した図面、標準作業書の内容と異なる事業を計画している場合です。確認をお願いします。申請期間が長引きそうな事例がありますのでご確認下さい。もし変更がある場合は早めにご相談下さい。

Q 保管場所、解体場所以外の場所が減少したのですが、変更届けは必要ですか。

A 解体作業に関係ない場所に関しても減少する場合は変更届けが必要となる場合があります。また、拡張する場合は届けの前に事前協議が必要となる場合があります。個別の事案により手続きが異なるので事前の相談をお願いします。

■まとめ(参考)■

申請資料の事前確認・作成

前回更新時の書類の再確認を行い、申請内容と現場に違いがないか等を確認します。



事前相談

作業場の現状、作成した申請書類について書類の確認と記載事項の確認をします。



許可申請提出

申請に必要な書類及び必要事項が確認できた後、許可申請書類の收受を行います。



申請書の審査・事業場の確認

申請書類の内容及び事業場が申請内容と合致しているか確認、審査を行います。



更新許可証の交付

(宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合 理事長 平地 健)

秋田県にて組合新年会開催



[↑写真：講演中の様子]

平成26年1月31日、秋田県秋田市にて、秋田県自動車解体処理協同組合が秋田県再生資源商工組合とともに「合同新春講演会・新年会」を開催しました。

当日は33名が参加し、本部より河村代表理事が出席しました。河村代表理事は、ELV機構の未来について講演を行い、自動車リサイクル士制度の経過報告の後、同制度を優良事業者制度に発展させていきたいという想いを語りました。優良事業者制度は、まだ検討段階のものです。今後さまざまな事業を通して、ELV機構として業界力の向上に取り組むことを発表しました。

北海道にてネオジム講習会開催



[↑写真：講習会当日の様子]

平成25年12月14日、石上車輛株式会社 恵庭工場にて、北海道自動車処理協同組合が「ネオジム磁石の回収及び消磁作業の講習会」を開催しました。

当日は20社31名が参加し、ハイブリッドミッションから走行モーター・発電モーターを取り出す作業やそれらの消磁作業などについて、実演・説明を行いました。

また、今後の課題として、分解・消磁・取り出し作業の効率向上やネオジム磁石の安定した売り先の確保などといったことが挙げられました。

日本のELVリサイクル これまでの10年とこれからの10年（後編）



熊本大学 法学部 教授 外川 健一 様より
「日本のELVリサイクル これまでの10年とこれからの10年」というテーマでご寄稿いただきました。
今号では、後編として「これからの10年」を掲載いたします。

時は2030年2月某日。所は静岡県某市の解体工場。搬入された車はプラグインの初期モデルとディーゼル車それに6年落ちの事故車。「ノン-Tのクルマが飛び出してきてぶつけられたそうです。」と報告する社員に工場長は「その車はどうした」とたずねる。「あの手はまだ趣味でほしがっている人が多いから結構な値段で引き取られて行くそうです。と答える。プラグインはそのまま解体ラインへ。ディーゼルと事故車は駆動ユニットだけ落として後は解体に回す。「10年ほど前までは部品を取ってリユース部品として売っていたが、その商売も今ではさっぱりだ。」と工場長はぼやく。最新の自動車は事故回避技術が進み、すっかり事故車はなくなった。たまにITS制御されていない車もあるが、大半は10数年前の車で中途半端なハイブリッド車は電池のメンテナンスに費用がかかり、低年式車になると人気はなく即解体に回される。電池に使われるリチウムが貴重なことも解体される理由の一つだ。反対に20数年前のガソリン車は人気だ。ITSで制御を嫌う人が買っていくからだ。ガソリン車は20年前の10倍の炭素税がかかるから贅沢な遊びとなっている。中古部品の販売が、解体業の柱だった時代もあったが、事故修理の減少とともに中古部品は激減した。解体業界は10年前の大激変で今では全国400社のコア業者に絞られた。激変の最大の理由は使用済自動車の激減と、鉄・非鉄のリサイクル素材価格の高騰だ…。(以下略)

以上は日刊自動車新聞創刊80周年記念号に「20年後のリサイクル業界」というタイトルで掲載されたフィクションです。しかし、少子高齢化と、深刻な若者のクルマ離れというダブルパンチもあって、このコラムには妙なリアリティがあります。とくに解体業者は全国に400社。ちょっと気になる数字ですが、現在のインフラでも大いにありうる数字です。

さて、今年から2度目の自動車リサイクル法の見直しが始まります。5年前の1回目の見直しでは、中古車と使用済自動車の線引きが主な話題となりましたが、2回目の今回の見直しでは、前回の見直しで掲げられた①自動車リサイクルの高度化＝より効率的かつ徹底した資源回収とASRの削減、②リユース部品の普及を進めるための政策が主たる議題になるでしょう。より高度なりサイクル、リサイクル部品の普及に向けた積極的な提案が、自動車解体業界からも求められていくと思われます。この点に関しては、この1月から経産省で、リサイクル部品の規格化に関する研究会が始まっています。

最近売れている車は軽自動車とハイブリッド。十数年後これらが中古車、使用済車に回る際に、どう仕入れて料理するかが、解体業者さんの腕の見せどころとなりそうです。また、電気自動車の市場への本格参入により、現在までとは違った専門的な自動車リサイクル技術が必要となってくるでしょう。そこでこれからの10年は①これからも需要の増加が見込まれる海外への本格的進出、②地元密着型の小回りの利くサービスを徹底させ、しかもコンプライアンスを重視する業者の生き残り、が核となるでしょう。

さらに「拡大生産者責任」の名の下、電気自動車のバッテリーやモーターが、メーカーの回収責任の対象にもなりかねません。出来るだけ自由にかつ安全に商売が出来るよう、自動車リサイクル士制度等を有効に活用し、自動車メーカーとの、そして業界の仲間との切磋琢磨の中での共存共栄が求められているのだと思います。

(終わり)

鉄スクラップ最新情報

■ 2月第3週(21日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供／日刊市況通信社]

東京製鉄が全拠点で500円値下げ 全国的に値下げ対応広がる

東京製鉄は21日、鉄スクラップ購入価格を全拠点で1トン当たり500円値下げ(田原工場のドライ粉類は1,000円値下げ)した。15日の改定を見送った宇都宮工場も2週間ぶりに値下げした。特級価格は、35,000～35,500円(高松は34,000円)。九州陸上は昨年11月以来、その他の拠点は10月以来の安値となった。

海外市場が下落したことや入荷が好調だった一部メーカーが先行値下げしたことを受けて、国内相場には先安観が広がっていた。また「東京製鉄が米国からの大型船(ディープシー)による3月末に到着の輸入シュレッダースクラップをCFR367ドルどこで新たに成約した」(貿易筋)との情報もあり、同社が購入価格を値下げする気配は以前からあった。

東京製鉄の値下げ改定を受けて、国内メーカー筋でも全国的に500円どころの値下げが拡大。先行値下げで安値水準となっていた筋や荷止め実施筋など一部を除き、大方の筋が対応した。また関東浜値も下押しした。

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



【関東地区】電炉筋の値下げ広がり一段安。荷余り感続き、なお弱含み。

2月21日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2		気配
関東	北関東	32,500	～ 35,500	値下がり
	南関東	32,500	～ 35,500	値下がり
名古屋		33,000	～ 34,000	弱含み
関西	大阪	34,000	～ 35,500	値下がり
	姫路	34,000	～ 34,500	値下がり

関東地区では、積雪による市中スクラップの流通の混乱が終息してきたほか、船送り数量の減少もあり、南関東を中心に荷余り感が強まり、電炉筋の荷止や荷受制限や先行値下げする筋も出ていた中、東京製鉄の値下げで北関東にも値下げの動きが広がった。今後、契約納入筋なども値下げに動く見通した。21日時点のH2炉前実勢価格は32,500～34,000円中心、高値35,500円見当。H2浜値は31,500～32,000円中心。

【東海地区】下げ環境継続。トピー工業21日から500円先行下げ。

名古屋地区のメーカー・トピー工業は、21日からスクラップの購入価格を一律500円値下げした。東京製鉄が21日から田原工場の購入価格を500円(ドライ粉は1,000円)値下げし、陸・海上特級を35,000円としたところ、トピー工業はすぐにこの動きに追随し先行値下げを実施した。その他の電炉筋も歩調を合わせ、今後も下げ環境が継続する公算が大きい。H2炉前実勢価格は33,000～34,000円中心、高値34,500円見当。

【関西地区】市況は一段安へ。先行き警戒なお根強いまま。

大阪地区では21日からほぼ半数の電炉筋が500円の追加値下げに踏み切り、市況は一段安の動きを見せた。海外安を受けての東京製鉄による価格抑制が波及したままで、先行きに対する警戒感は緩まる気配にない。H2炉前実勢価格は34,000～34,500円、一部高値35,500円。また姫路地区では、20～21日にかけてメーカーの下げが一巡。H2炉前実勢価格は34,000～34,500円へ後退した。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、2月21日午後時点のもの)

行事予定

■3月の主な予定

3月13日(木)

・自動車リサイクル士制度認定講習会(1日目)

3月14日(金)

・自動車リサイクル士制度認定講習会(2日目)

3月15日(土)

・第9回 リサイクル技術部会

3月20日(木)

・第12回 広報部会

3月27日(木)

・第2回 ブロック長会議

3月28日(金)

・第10回 常任役員会

・理事会

ひな祭り



お知らせ

■会員数(2014年2月現在)

会員＝666社／賛助会員＝28社

■エアバッグ類車上作動処理一括作動ツールの注意点

エアバッグ類車上作動処理実施の際、使用される一括作動ツールに関して、このたび「ツールが起動しない」というお問い合わせが増加しています。修理対応した大半は、ケーブルの断線等による不具合が原因でした。

【不具合の代表例】

- ①ケーブルの断線・接続部等の破損
- ②電源バッテリーの劣化

これらの不具合の対策法など詳細については、以下のURL(資料掲載ページ)にアクセスして、記載されている注意点をよくご確認ください。

▼資料掲載ページ

http://www.jarp.org/pdfs/information/20140207_airbug_01_JAMATOOL.pdf

▼お問い合わせ先

一括作動ツールについて

豊通リサイクル株式会社(担当:宮本)

TEL:0467-70-7461

エアバッグ・フロン全般

自動車再資源化協力機構(業務部)

TEL: 03-5405-6155 / E-mail: info@jarp.org

(情報提供／自動車再資源化協力機構)

編集後記

「今年の気候はいつもの年とは違うぞ」と感じるのは私だけではないと思います。2月に入り、関東各地で記録的な積雪を観測したというニュースも記憶に新しいところです。▲ちょうど大雪のあった2月14日、たまたま我が広報部会の会議を新橋の日本ELVリサイクル機構本部で行っていました。降り続く雪は、懇親会を終え、ホテルに戻る頃にはすでに路面をシャーベット状の雪で覆いつくしていました。足下もおぼつかない状態で少々怖い。通常、この状態で車が走ることはとても怖くてできませんが、なぜかタクシーは颯爽と運行していました。聞くところによればタクシー会社によっては万が一に備え、冬期間になるとスタッドレスタイヤに履き替えるのだそうです。▲まさに備えあれば憂いなし。その日の夜はタクシーを捕まえようとする人でごった返していました。おそらく商売繁盛だったのではないのでしょうか。ちなみに私たちもタクシーでホテルに戻ろうとしましたが捕まらず、不安を抱きつつ電車で帰途についたのです。

(広報部会長 永田 則男)